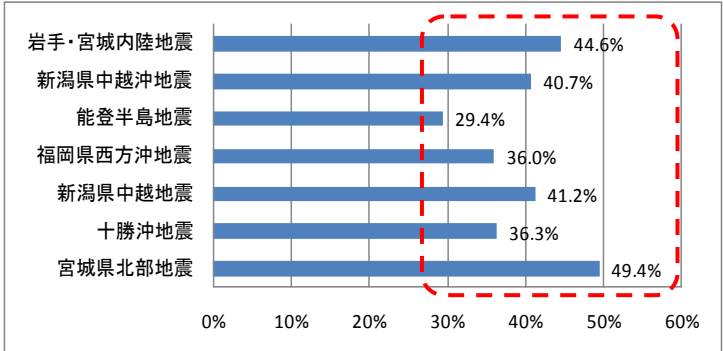
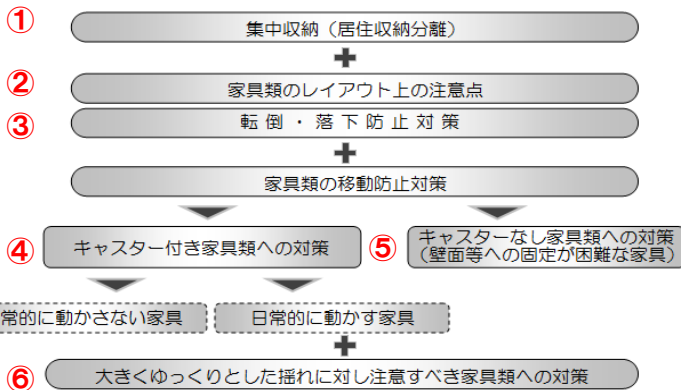
共同住宅の
家具類の転倒・落下・移動防止対策

● 地震による負傷の原因

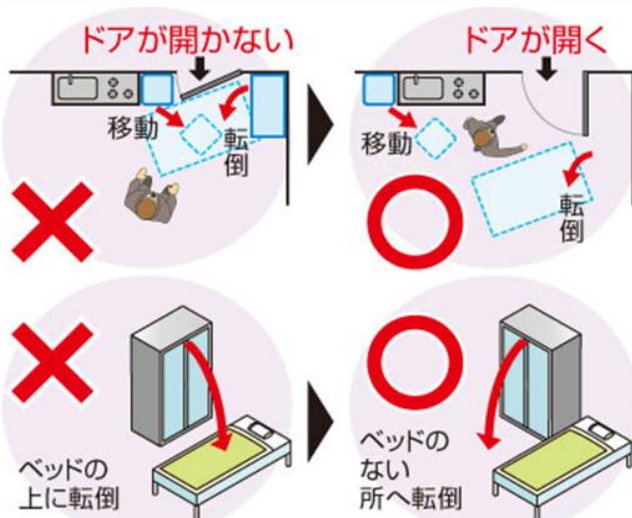
地震による負傷の原因のうち、**約30～50%が家具類の転倒・落下・移動**によるものです。

〇家具類の転倒・落下・移動による危険
- 直接当たってけがをする
- 避難通路を塞ぐ
- 家具などがストーブなどに転倒・落下・移動して出火する

ご自分やご家族の負傷を防止し、避難障害の発生を防ぐためには、家具類の転倒・落下・移動防止対策が非常に大切です。

近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけが人の割合

地震に対する家具類への対策

Point

- 〇 家具は集中収納（特に、賃貸の共同住宅で原状回復義務のあるところでは、転倒・落下・移動防止対策の方法が制限されるため、可能な限り住空間と収納空間を分けましょう）
- 〇 安全な家具の配置に配慮しましょう
- 〇 適切な転倒防止器具を使って、家具類の固定をしましょう
- 〇 特に寝室やよく居る場所は大型家具を置かないようにしましょう

安全な家具の配置

通路や出入口周辺に家具類を置かないようにしましょう。家具類を置く方向にも注意しましょう。

器具の種類と効果

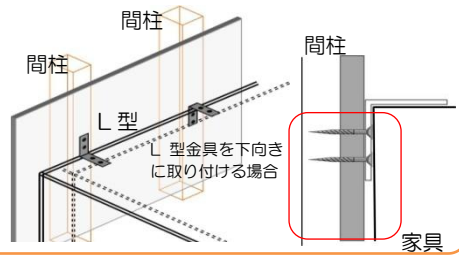
転倒防止器具は、震度６強の揺れを再現した実験で、その効果を測定しました。

家具類の固定方法

家具類の転倒・落下・移動防止対策実施済み住宅にお住まいの方は、パンフレット、取扱説明書等に従って、対策を実施してください。

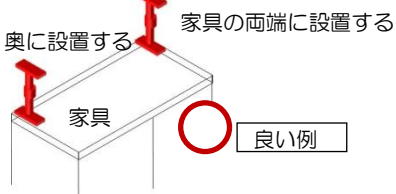
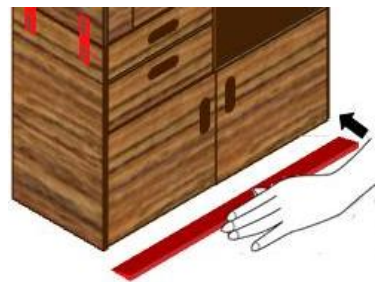
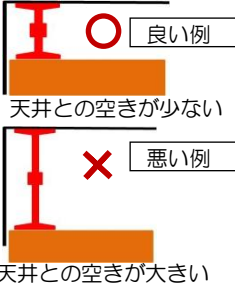
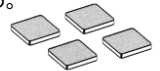
● 壁に固定する場合

Point

○　対策の基本は、ネジ（長めのものを使用）による固定です。家具を固定する対象は、壁下地の柱、間柱、胴縁等です。
○　付け鴨居は、強度が確認された場合、これに固定することが可能です。
○　上下２段式の家具など、やむを得ず積み重ねる場合は金具で連結しましょう。

● ポール式器具・ストッパー式器具の取付け方法

Point

○　ポール式器具は、家具の両側の側板部の壁側奥に設置します。（天井に十分な強度が必要）
○　天井に強度がない場合には、天井側に家具の幅以上の板で補強し、更にポール式と当て板をネジで固定すると効果が高くなります。
○　ポール式器具は奥行きのない家具、天井との間隔が大きい場合には不向きです。
○　ストッパー式器具は家具の端から端まで敷きます。単独使用は、大きな家具の場合は一般的に適しません。

取付け位置（奥行き）

取付け位置（高さ）

ポール式を使用する場合は、ストッパー式やマット式と併用し、家具の上下に対策を取る。

● 家電製品の転倒・落下・移動防止対策

家電製品をボルト等で固定する場合は、取扱説明書の方法に従って取付けてください。

Point

● テレビ
○　床・壁に固定されたテレビ台とテレビを直接固定するのが最も確実な方法です。
○　ヒートンを使用して固定する場合は、壁、ヒートンや紐の強度を確認しましょう。
● 冷蔵庫
○　冷蔵庫の背面上部のベルト取付け部分と壁とをベルトで連結すると、効果が高くなります。
○　冷蔵庫は、移動や転倒したときに備え、避難の障害にならないように置き方を工夫しましょう。

ストラップ

粘着マット

東京消防庁

お問合せ先
〒144-0053
東京都大田区蒲田本町２－２８－１
電話　03-3735-0119
蒲田消防署警防課防災安全係